

ICT 環境とプレゼンテーションの習熟度に関する調査

Research on ICT Environment and Proficiency Level of Presentation

石井 広二

Hiroji ISHII

桐生大学医療保健学部

Faculty of Healthcare, Kiryu University

Email: ishii-hi@kiryu-u.ac.jp

あらまし：大学初年次に身に付けるべき情報活用能力としてプレゼンテーション能力が求められている。そこで大学入学次における ICT 環境とプレゼンテーションに対する習熟度との関連性を調べた結果、有意な関連性は見られなかった。一方でプレゼンテーションを実施し、相互評価とビデオによる振り返りを行った結果、習熟度の意識に変化が見られた。

キーワード：プレゼンテーション、ICT 環境、高等教育、初年次教育

1. はじめに

中央教育審議会は「学士課程教育の構築に向けて（答申）」⁽¹⁾において、「各専攻分野を通じて培う学士力～学士課程共通の学習成果に関する参考指針～」として、「知識・理解」「汎用的技能」「態度・志向性」「統合的な学習経験と創造的思考力」の4つを示した。「汎用的技能」は、「コミュニケーション・スキル」「数量的スキル」「情報リテラシー」「論理的思考力」「問題解決力」の5つで構成されている。続いて、「新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて～生涯学び続け、主体的に考える力を育成する大学へ～（答申）」⁽²⁾の中で、「能動的学修（アクティブ・ラーニング）への転換」の必要性について、言及している。具体的な方法として、「ディスカッションやディベートといった双方向」の授業への転換が求められた。

一方で、高度化、複雑化、多様化してきた管理栄養士の養成においては、栄養改善学会が示した、「管理栄養士養成課程におけるモデルコアカリキュラム 2015」⁽³⁾で、4年間の教育「I. 全学年を通じて学ぶ」項目として、「3. 表現力を高める」を挙げている。その一般目標では、「管理栄養士に必要なコミュニケーション能力やプレゼンテーション能力の向上を図る。情報の収集と情報交換の手段として不可欠な情報リテラシーを習得する。」とあり、初年次から情報機器の活用や、それを用いたプレゼンテーション能力の育成が求められている。

そこで本研究では、大学1年次におけるプレゼンテーションに対する意識や技能が大学入学前の ICT の環境や興味・関心とどのように関連しているのか、調べた。

2. 情報機器に対するアンケート調査

2.1 アンケート調査

大学入学段階での、情報機器やアプリケーション習熟度についてアンケート調査を2014年から2017年の4年間実施した。

その結果、自宅でのパソコン所有率は90%を超えており、また、約80%が小学校以前にパソコンを使い始めたことが分かった。一方で、97%がスマートフォンを所持しており、特に2016・2017年は100%であった。

アプリケーションの具体的な操作については、「インターネット情報の検索」は95%以上が「できる」「まあできる」と回答している。文書処理については、「文字の入力」は約90%、「文字の拡大やアンダーラインをつける」ことは約70%、「表やグラフの挿入」は約60%が「できる」「まあできる」と回答している一方で、プレゼンテーションについては、「スライド（資料）の作成」が約60%だったものの、「図解・フレーズ化などの工夫」「人前でプレゼンテーション」は「できる」「まあできる」の割合が40%を下回っている（図1）。

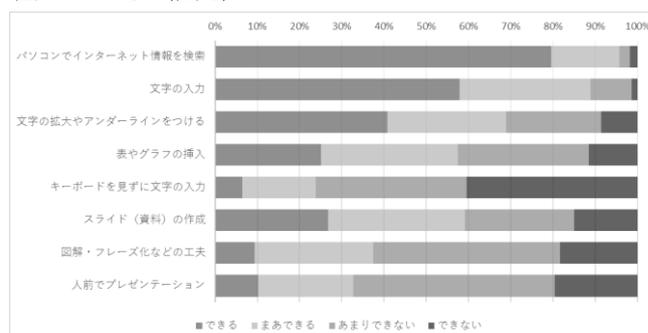


図1. パソコンでの操作

2.2 ICT 環境とプレゼンテーション習熟度

パソコンの所有状況および使用開始時期とプレゼンテーションの習熟度についての関連性について Fisher 検定を行った（表1）。その結果、すべてにおいて、有意水準5%で有意な関連性は見られなかった。このことから、プレゼンテーションの習熟度を高めていくためには、ICT の環境を整えて、操作技術を上げることも必要ではあるが、プレゼンテーションの機会を多く設定し、経験を積ませることの方

が重要であると考えられた。

表1 ICT環境とプレゼンテーション習熟度

	スライド(資料)の作成		p値	図解・フレーズ化などの工夫		p値	人前でのプレゼンテーション		p値
	できる	できない		できる	できない		できる	できない	
様数名で所持	45	33	0.0723	32	46	0.674	25	53	0.958
自分専用で所持	22	6		14	14		8	20	
所持していない	5	6		4	7		4	7	
小学校以前	56	38	0.216	39	55	0.704	28	66	0.536
中学・高校	16	6		11	11		9	13	
大学	0	1		0	1		0	1	

3. プレゼンテーションの振り返り

3.1 プレゼンテーション

授業内において、PowerPoint を用いてプレゼンテーションを実施した。プレゼンテーションを実施するにあたり、授業の1回目でインターネット情報の検索と著作権について説明し、2回目から5回目まで Word の操作方法について、説明した。その上で「私がすすめる料理・食材・食品など」をテーマにその内容をプレゼンテーションするというを前提に Word のレポート課題を課した。6回目から8回目まで PowerPoint の操作方法について説明し、9回目・10回目の2回に分けて一人5分で履修者全員のプレゼンテーションを実施した。プレゼンテーションの実施に先立ち、お互いに評価しあうことを事前に伝え、その評価の観点を示した。さらにプレゼンテーションの様子はビデオで撮影し、事後に学生の評価結果およびコメントを参考にしながら自身のプレゼンテーションを振り返ってもらうことを伝えた。

3.2 事後評価

先行研究⁽⁴⁾において、プレゼンテーションの、ビデオを用いての振り返り効果の有効性について、95%以上で役に立っており、さらに人が評価すること及び人の評価をすることの振り返り効果についての有効性が100%近いことを示した。

そこで、2016・2017年の2年間でプレゼンテーシ

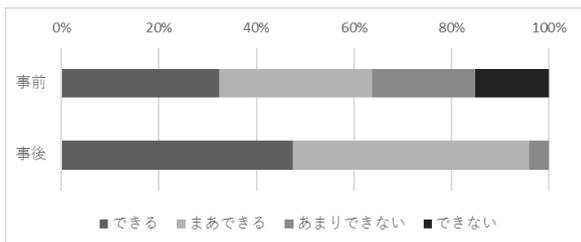


図2 スライド(資料)の作成

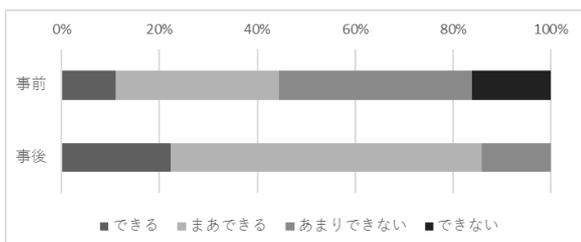


図3 図解・フレーズ化などの工夫

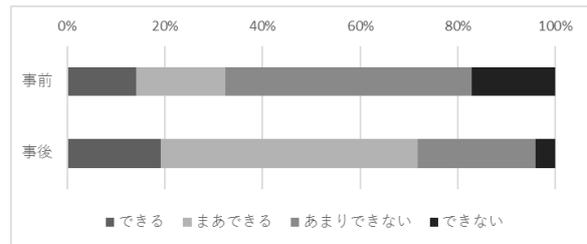


図4 人前でのプレゼンテーション

の事前と事後における習熟度についての比較を行った。

その結果、「スライド(資料)の作成」については回答者の約96%が、「図解・フレーズ化などの工夫」では約85%が「できる」「まあできる」となり、苦手意識が低減されている(図2, 3)。「人前でのプレゼンテーション」についても、約7割が「できる」「まあできる」と回答している一方で、「できない」との回答が4%あった(図4)。「できない」と回答した中には、ビデオと他者の評価が緊張感をより増幅させてしまい、それを映像で確認した結果、思うようなプレゼンテーションができていなかったと感じている者もいたが、他の者はビデオでの振り返りの結果、理想としていたプレゼンテーションには及ばず、今後も積極的に取り組みたいという姿勢がみられる回答であった。

4. まとめ

今回の調査では、ICT環境とプレゼンテーション習熟度について関連性を調べたが、有意な関連性は見られなかった。一方で、実際にプレゼンテーションを実施し、相互評価とビデオによる振り返りで習熟度に関する意識は高まった。そのため、「管理栄養士養成課程におけるモデルコアカリキュラム2015」にもあるように、全学年を通じてプレゼンテーションの能力の向上をはかる教育を実施していくカリキュラムや授業方法の改善を図っていくことが必要である。

参考文献

- (1) 文部科学省中央教育審議会: “学士課程教育の構築に向けて(答申)平成20年12月24日”, http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/1217067.htm (参照2018.6.9)
- (2) 文部科学省中央教育審議会: “新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて～生涯学び続け、主体的に考える力を育成する大学へ～(答申)平成24年8月28日”, http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/1325047.htm (参照2018.6.9)
- (3) 特定非営利活動法人日本栄養改善学会理事会: “「管理栄養士養成課程におけるモデルコアカリキュラム2015」の提案(2015.08.29採択)”, http://jsnd.jp/img/model_core_2015.pdf (参照2018.6.9)
- (4) 石井広二: “相互評価とビデオ映像を用いたプレゼンテーションの振り返り効果”, 日本教育工学会第28回全国大会 講演論文集, pp.207-208 (2012)